

平成22年4月30日公表

平成21年九州の海面漁業・養殖業生産統計(概数)

－海面漁業・養殖業生産量は、前年に比べて10万3,984t(11%)減少－

【調査結果の概要】

1 平成21年(1月～12月)の九州における海面漁業・養殖業の生産量は82万8,422 tで、前年に比べて10万3,984 t(11%)減少しました。

これは海面漁業、海面養殖業ともに減少したためです。

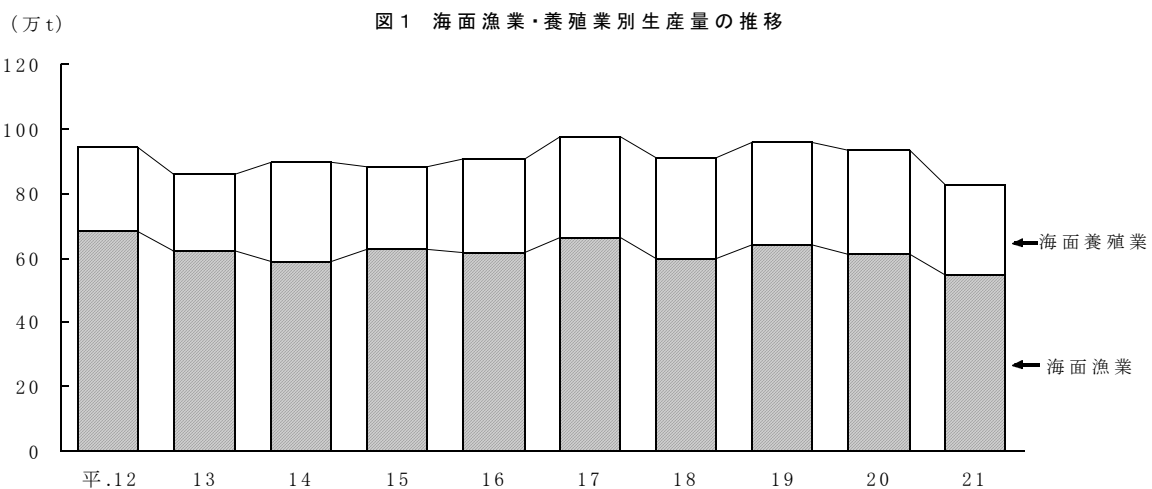
なお、生産量に占める海面漁業漁獲量の割合は66%となりました。

2 海面漁業の漁獲量は54万4,034 tで、前年に比べて6万7,561 t(11%)減少しました。

これは、さば類等は増加したものの、いわし類、かつお類及びまぐろ類等が減少したためです。

3 海面養殖業の収穫量は28万4,388 tで、前年に比べて3万6,423 t(11%)減少しました。

これは、まだい、ふぐ類等は増加したものの、のり類、ぶり類等が減少したためです。



この統計調査結果で使用している統計表は、以下のアドレスからデータとしてご利用いただけます。

【 http://www.maff.go.jp/kyusyu/toukei/ht_suisan_kyushu.html 】

本統計における調査の目的、調査の対象などは、[調査の概要] P 7に掲載しております。

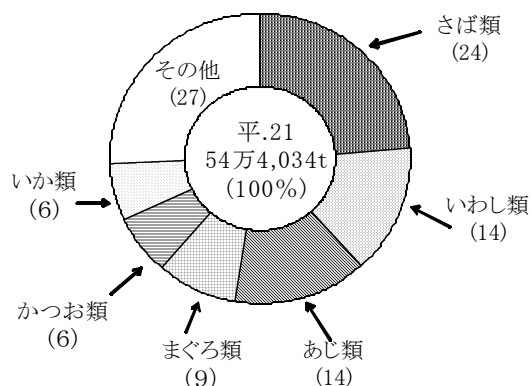
【調査結果】

1 海面漁業漁獲量

平成21年の九州における海面漁業の漁獲量は54万4,034tで、前年に比べて6万7,561t（11%）減少しました。

漁獲量に占める魚種別の構成割合は、さば類が24%で最も高く、次いでいわし類、あじ類が14%、まぐろ類が9%、かつお類、いか類が6%となっています。

図2 魚種別漁獲量の構成割合



(1) さば類

さば類の漁獲量は13万593tで、前年に比べて1万46t（8%）増加しました。

これは、大中型1 そうまき網等で増加したためです。

(2) いわし類

いわし類の漁獲量は7万8,648tで、前年に比べて2万9,568t（27%）減少しました。

これは、うるめいわしは増加したものの、まいわし、かたくちいわし等が減少したためです。

(3) あじ類

あじ類の漁獲量は7万8,016tで、前年に比べて1,861t（2%）減少しました。

これは、むろあじ類が減少したためです。

(4) まぐろ類

まぐろ類の漁獲量は4万7,449tで、前年に比べて7,143t（13%）減少しました。

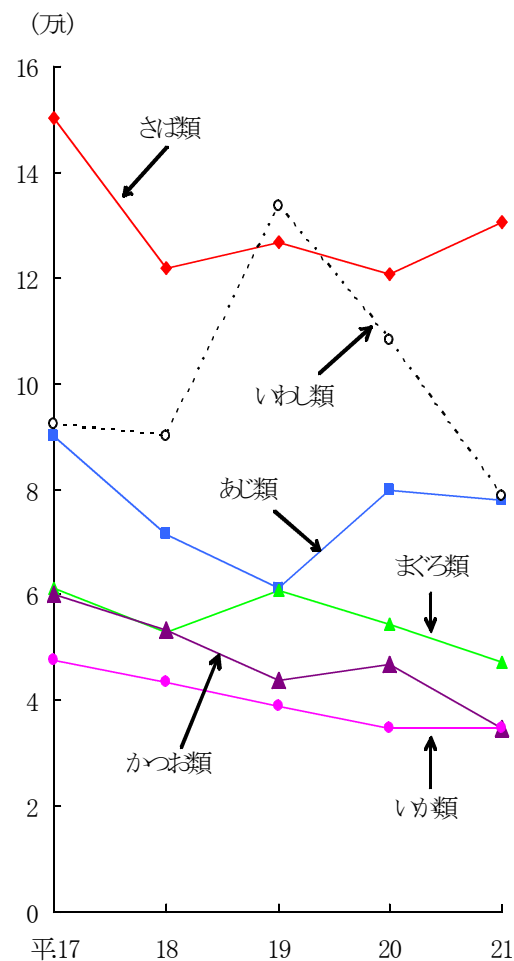
これは、きはだ、めばち等が減少したためです。

(5) かつお類

かつお類の漁獲量は3万4,977tで、前年に比べて1万1,965t（25%）減少しました。

これは、かつお、そうだがつお類が減少したためです。

図3 主な魚種別漁獲量の推移



(6) いか類

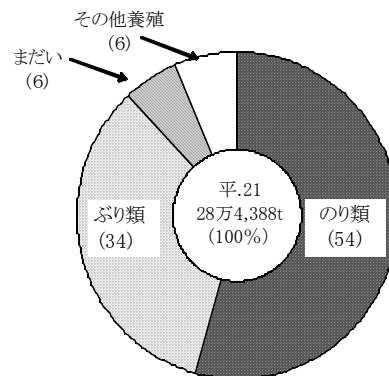
いか類の漁獲量は3万4,828tで、あかいか等は減少したものの、するめいかが増加したため前年並みとなりました。

2 海面養殖業収獲量

平成21年の九州における海面養殖業の収獲量は28万4,388tで前年に比べて、3万6,423t (11%) 減少しました。

収獲量に占める魚種別の構成割合は、のり類が54%で最も高く、次いでぶり類が34%、まだいが6%となっています。

図4 養殖魚種別収獲量の構成割合



(1) のり類

のり類の収獲量は15万4,315tで、前年に比べて3万3,695t (18%) 減少しました。

これは、赤腐れ病等の発生やプランクトン発生による栄養塩が低下したためです。

(2) ぶり類

ぶり類の収獲量は9万5,862tで、前年に比べて4,754t (5%) 減少しました。

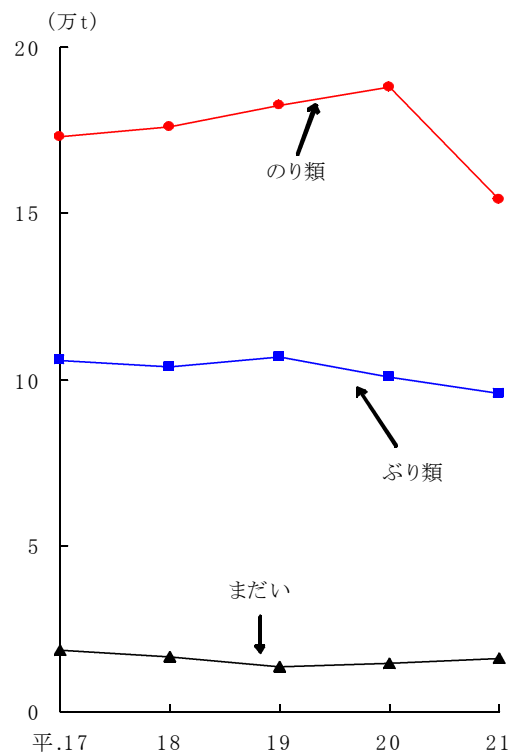
これは、赤潮による被害が発生したためです。

(3) まだい

まだいの収獲量は1万5,776tで、前年に比べて1,123t (8%) 増加しました。

これは、他の養殖魚種からの変更等により増加したためです。

図5 主な養殖魚種別収獲量の推移



【統計表】

1 海面漁業・養殖業生産量総括表

単位：t

年次	計	海面漁業	海面養殖業
平. 12	943 392 (100)	683 394 (72)	259 999 (28)
13	861 275 (100)	620 828 (72)	240 447 (28)
14	898 268 (100)	589 691 (66)	308 577 (34)
15	884 526 (100)	627 115 (71)	257 411 (29)
16	906 111 (100)	616 965 (68)	289 146 (32)
17	975 518 (100)	662 458 (68)	313 060 (32)
18	912 649 (100)	599 161 (66)	313 488 (34)
19	958 493 (100)	637 986 (67)	320 507 (33)
20	932 406 (100)	611 595 (66)	320 811 (34)
21	828 422 (100)	544 034 (66)	284 388 (34)
対前年差	△ 103 984	△ 67 561	△ 36 423
対前年比(%)	89	89	89

注：()書きの数値は構成割合(%)です。

2 海面漁業

(1) 主な漁業種類別漁獲量

単位：t

漁業種類	平. 21	20	対前年差	対前年比(%)
計	544 034	611 595	△ 67 561	89
小型底びき網	11 949	13 469	△ 1 520	89
船びき網	22 291	27 521	△ 5 230	81
大中型1そうまき網	157 244	133 989	23 255	117
中・小型まき網	133 929	179 695	△ 45 766	75
刺網	15 609	16 565	△ 956	94
定置網(大型・小型)	30 851	36 236	△ 5 385	85
その他の網漁業	11 222	10 277	945	109
まぐろはえ縄	30 282	42 112	△ 11 830	72
かつお一本釣(遠洋・沿岸)	8 420	14 132	△ 5 712	60
いか釣	23 537	22 436	1 101	105
ひき縄釣	6 643	7 896	△ 1 253	84
その他の釣	13 791	15 241	△ 1 450	90
採貝・採藻	12 166	21 071	△ 8 905	58
上記以外の漁業	66 100	70 955	△ 4 855	93

(2) 主な魚種別漁獲量

単位：t

魚種	平. 21	20	対前年差	対前年比(%)
合計	544 034	611 595	△ 67 561	89
魚類計	481 206	539 243	△ 58 037	89
まぐろ類計	47 449	54 592	△ 7 143	87
かじき類計	2 834	3 509	△ 675	81
かつお類計	34 977	46 942	△ 11 965	75
かつお	30 320	41 675	△ 11 355	73
そうだがつお類	4 657	5 267	△ 610	88
このしろ	3 071	3 797	△ 726	81
いわし類計	78 648	108 216	△ 29 568	73
まいわし	1 568	3 172	△ 1 604	49
うるめいわし	26 226	15 580	10 646	168
かたくちいわし	41 031	77 455	△ 36 424	53
しらす	9 823	12 009	△ 2 186	82
あじ類計	78 016	79 877	△ 1 861	98
まあじ	63 653	62 925	728	101
むろあじ類	14 363	16 952	△ 2 589	85
さば類	130 593	120 547	10 046	108
ぶり類	14 592	16 104	△ 1 512	91
ひらめ・かれい類	2 694	2 872	△ 178	94
たい類計	9 882	10 350	△ 468	95
まだい	6 066	6 133	△ 67	99
ちだい・きだい	3 014	3 368	△ 354	89
さわら類	2 970	3 701	△ 731	80
ふぐ類	1 127	1 303	△ 176	86
注) 上記以外の魚類	74 351	87 432	△ 13 081	85
えび類計	2 922	2 949	△ 27	99
くるまえび	239	309	△ 70	77
注) 上記以外のえび類	2 683	2 641	42	102
かに類計	1 283	1 435	△ 152	89
がざみ類	929	1 048	△ 119	89
その他のかに類	354	388	△ 34	91
貝類計	11 408	18 621	△ 7 213	61
あさり類	3 200	10 242	△ 7 042	31
その他の貝類	6 000	6 076	△ 76	99
注) 上記以外の貝類	2 208	2 304	△ 96	96
いか類計	34 828	34 880	△ 52	100
するめいか	15 671	14 561	1 110	108
あかいか	8 775	8 828	△ 53	99
その他のいか類	10 383	11 491	△ 1 108	90
たこ類	3 523	3 430	93	103
うに類	1 824	1 859	△ 35	98
その他の水産動物類等	1 668	1 817	△ 149	92
海藻類計	5 372	7 360	△ 1 988	73
その他の海藻類	5 372	7 360	△ 1 988	73

注) 「上記以外の魚類」、「上記以外の貝類」及び「上記以外のえび類」には、その他の魚類、その他の貝類、その他のえび類に加え漁獲量が少ない魚種も含んで計上しています。

3 海面養殖業

主な海面養殖業魚種別収穫量

単位：t

魚種	平. 2 1	2 0	対前年差	対前年比(%)
合計	284 388	320 811	△ 36 423	89
ぶり類	95 862	100 616	△ 4 754	95
まだい	15 776	14 653	1 123	108
くるまえび	923	960	△ 37	96
わかめ類	1 914	2 255	△ 341	85
のり類(生重量)	154 315	188 010	△ 33 695	82
上記以外	15 597	14 318	1 279	109

〔統計表の見方等〕

- 1 統計数値については、表示単位未満を四捨五入しており、合計と内訳の計が一致しないことがあります。
- 2 表中に用いた記号は以下のとおりです。
 - 「△」は減少したもの
 - 「○」単位に満たないもの

【調査の概要】

1 調査の目的

海面漁業生産統計調査は、我が国の海面漁業、海面養殖業の生産に関する実態を明らかにし、水産行政に係る資料を整備することを目的としています。

2 調査の対象

海面漁業生産統計調査のうち、海面漁業漁獲統計調査及び海面養殖業収獲統計調査は、原則、水揚機関を対象とし、水揚機関で把握できない場合に限り、海面漁業経営体を対象としました。

3 調査期間

調査期間は、平成21年1月1日～12月31日の1年間です。

なお、遠洋漁業等で年を越えて操業する場合は、陸揚等のために港に入港した日の属する年に含めて調査を行いました。

4 調査方法

(1) 水揚機関

統計調査員が調査客体に調査票等を配付し自計申告する方法、電子計算機又は紙に出力された記録を閲覧する方法、又は面接聞き取りの方法により実施しました。

(2) 漁業経営体

水揚機関で把握できない漁業経営体については、以下の方法で調査を実施しました。

ア 一括調査

統計調査員が調査客体に調査票等を配付し自計申告する方法、又は面接聞き取りの方法により実施しました。

イ 往復郵送調査

往復郵送調査により実施しました。

5 用語等の解説

(1) 主な漁業種類の解説

ア 底びき網漁業

底びき網を使用して行う漁業。遠洋底びき網漁業、以西底びき網漁業、沖合底びき網漁業、小型底びき網漁業があります。

イ 船びき網漁業

船を拠点として、船を一定のところに止めて網具を引き寄せるか、又は船を移動させながら網具を引き回して漁獲する漁業です。

ウ まき網漁業

魚類等を網具で包囲し、その逃路を断ち次第に包囲形を縮小して、これを採捕する漁業を総称していいます。大中型まき網漁業、中・小型まき網漁業があります。

エ 刺網漁業

刺網を魚類等の遊泳通過するところを遮断するように張り、網目に刺させたり、からませたりして漁獲する漁業をいいます。さけ・ます流し網漁業、かじき等流し網漁業等があります。

オ 定置網漁業

漁具を固定して行う漁業で、沿岸を回遊する魚類の進路を遮断し、魚群を沖合に誘導し、袋網内に落とし入れて漁獲する漁業です。大型定置網、さけ定置網、小型定置網があります

カ はえ縄漁業

幹縄に多数の枝縄を付け、この先端に釣針を結着した漁具を横に長く延べて行う釣漁業を言います。まぐろはえ縄等があります。

キ 釣漁業

釣糸と釣針を有する漁具を使用し、餌又は擬餌等により水産動物を誘引し釣針にからませ漁獲する漁業をいいます。かつお一本釣漁業、いか釣漁業、ひき縄釣漁業等があります。

6 その他

この資料の数値は概数であり、確定値は平成23年刊行予定の『漁業・養殖業生産統計年報』に掲載します。

【関連リンク】

九州農政局ホームページ>農林水産情報>農林水産統計

<http://www.maff.go.jp/kyusyu/toukei/index.html>

九州農政局ホームページアドレス

<http://www.maff.go.jp/kyusyu/index.html>

問い合わせ先

◎本統計調査結果について

連絡先：九州農政局 統計部

生産流通消費統計課

電 話：(代) 096-353-3561 内線 4755

直通電話： 096-353-7576

◎農林水産統計全般について

連絡先：九州農政局 統計部

統計企画課 企画係

電 話：(代) 096-353-3561 内線 4724

直通電話： 096-353-7554